

令和5年度宮城県精神保健福祉審議会 (第9回)

日時: 令和6年2月15日 (木)

午後6時30分から午後8時30分まで
場所: 宮城県行政庁舎9階 第一会議室

審議委員 白岩晴風 会長
我妻 健夫 サロン・ホール責任者

先月1月16日(水)の私の意見書と重複するかもしれませんが、この審議会は、直接心の痛の方々とかがわらわらおられる医療従事者や家族の方、当事者の方々と構成されています。この審議会では話しあわれたことをいかにして、行政に反映して(しかという点も、発着しえと具体的に実現してゆかなければならないと思っております。

私が言うまでもなく政治や行政の方々は、市民に選ばれた方々です。ある意味で公務員と言っても市民の方々のための奉仕者であるべきです。市民の方々がどうすれば、よは生活をおくれるかという点も具体的に実現していく仕事であると思っております。

私は、東日本大震災の前々年2020年、12月の県会議会前に当時、県会議員だった、小野寺初正さんの所蔵もあって、村井知事に20分間、私の書いた要望書と提出し、これに注し、議会に読んでいただいた旨を述べました。
①点として、授産施設(長期)院された方々の社会での生活していく訓練の場としてを増やして欲しいということ。

②点として、ピアサポート制度に予算をつけて欲しいということ
③点として、社会で働けるよう、ジョブコーチの必要性として予算をつけて欲しいこと
④点として、いつでも相談を受けられる相談支援事業所の必要性。

そのほか、訪問活動(アウトリーチ)への予算をつけその後、宮城県の精神保健はよくなるどころか、かえって悪くなっているという感を、いたしております。

